令和４（2022）年 10 月 31 日

27号

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌　年２回発行

令和３年度の主な発掘成果から

令和３年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域西部の久宝寺遺跡では、弥生時代中期後半～奈良時代の居住域の存在が明らかになりました。また東部の郡川遺跡では、弥生時代中期～古墳時代後期の居住域や、墓域などを確認しました。さらに中央部の東郷遺跡では、古墳時代初頭～中世の居住域、北西部の山賀遺跡では弥生時代前期～古墳時代後期の居住域が見つかりました。

以下では、各遺跡(図１)の発掘調査の成果を紹介いたします。

図１　調査位置図

古墳時代前期～古代の居住域を発見！

久宝寺遺跡<第 95 次調査>　(南久宝寺二丁目地内他)

久宝寺遺跡は、八尾市の中西部に位置する弥生時代(BC４C)～中世(16C)の複合遺跡です。今回の調査は、都市計画道路久宝寺線整備に伴うもので、調査面積は約 2,309 ㎡を測ります。調査では、弥生時代中期後半～奈良時代の遺構を多数確認し、遺物も多数出土しました(写真１)。この内、古墳時代中期～後期では、掘立柱建物４棟および柱列を確認し、居住域の存在が明らかになりました。飛鳥～奈良時代では１・３区で３条の溝を検出しました。特に溝 1002 からは須恵器の提瓶・平瓶・大型壺(写真２)のほか、有孔円板、馬歯といった特異な遺物が出土しています。

写真１　古墳時代前期～奈良時代１区北部全景(北から)

写真２　奈良時代前期　溝 1002 内遺物出土状況(北から)

目次

◆令和３年度の主な発掘成果から(Ｐ１～３)　◆考古学よろずコラム第 27 回(Ｐ４)
◆イベント情報/編集後記(Ｐ４)

弥生時代前期～古墳時代前期の居住域や墓域を発見！
郡川遺跡<第 32・33 次調査>　(郡川一丁目　教興寺一・四丁目　服部川一丁目)

郡川遺跡は、八尾市の東部に位置する弥生時代(BC４C)～中世(16C)の複合遺跡です。

第 32 次調査は、八尾市郡川土地区画整理に伴うもので、調査面積は 4,812 ㎡を測ります。各調査区では、郡川西塚古墳の構築基盤層に相当する縄文時代晩期～古墳時代中期の遺物包含層を確認したほか、その下面において当該期の遺構群を多数検出しました。北西部の②-１区では、古墳時代前期の竪穴住居、井戸、土坑を検出し(写真３)、居住域の存在が判明しました。南部に位置する②-９区周辺では、併行期の水田に関連する畦畔や作土層を確認し、生産域の存在が明らかになりました。この遺構群は、一つの集団により形成されたものと考えられ、弥生時代後期～古墳時代前期の集落の構造を復元する上で注目すべき成果と言えます。また、西部に位置する②-７区では、水田作土層の下位において洪水により形成された微高地を確認しました。この微高地では、弥生時代中期の土器が東西方向に並べられた状態で出土しました(写真４)。出土状況から推測すると、南からの景観を意識して意図的に配置された祭祀に関連する遺構の可能性があります。

第 33 次調査は、八尾市郡川土地区画整理に伴うもので、調査面積は 13,210 ㎡を測ります。各調査区において、郡川西塚古墳の構築基盤層に相当する暗色を呈した縄文時代晩期～古墳時代中期の遺物包含層を確認しました。また、この遺物包含層の下面では、弥生時代前期～古墳時代後期の遺構群を多数検出しました。この内、弥生時代前期～中期については限定的ですが、弥生時代後期以降は各調査区で遺構・遺物が確認されており、周辺一帯が居住域として機能していたことが明らかになりました。弥生時代後期前半については③-３区で、竪穴住居が２棟検出(写真５)されたほか、郡川西塚古墳の東の③-２-A-１区で円形周溝墓を３基検出しました。この内、全容が判明した円形周溝墓は、盛土部分で直径 8.5m、周溝を含めると直径 11.0mの規模を有します。古墳時代後期については、郡川西塚古墳の西に当たる④-１-１区及び④-１-２区で、埴輪やこぶし大の石を多量に含む黒色粘土を埋土とする南東-北西方向に延びる溝(写真６)を検出しました。この溝は、郡川西塚古墳の前方部に並行して延びる可能性が考えられ、郡川西塚古墳前方部西側の周濠と周堤帯の可能性が高くなり、郡川西塚古墳の平面形状や規模を復元する上で注目すべき遺構であると言えます。

写真３　②-１区古墳時代前期 SI101(北東から)

写真４　②-７区弥生時代中期土器集積検出状況(南から)

写真５　③-３N区　弥生時代後期前半　SI201(上が西)

写真６　④-１-１・２区　古墳時代後期　SD201 検出状況(北西から)

古墳時代初頭～中世の居住域を発見！

東郷遺跡<第 90 次調査>(桜ヶ丘一丁目)

東郷遺跡は、八尾市の北西部に位置する弥生時代(BC４C)～中世(16C)の複合遺跡です。今回の調査は、共同住宅建設に伴うもので、調査面積は約 487 ㎡を測ります。調査では、古墳時代初頭～中世の遺構・遺物と近代の井戸を検出しました。なかでも、古墳時代初頭～前期の遺物を多量に含む土坑(SK116・205・206)や、出土例の少ない台付鉢が出土した土坑(SK112)は特筆されます(写真７)。また、縦板組の井戸枠を持つ井戸(SE104)を確認し、井戸枠内部からは５世紀代の土師器や須恵器が出土しています(写真８)。したがって、周辺での調査成果同様、本地にも当該期の居住域が広がっていることが明らかになりました。

写真７　古墳時代前期　SK112 遺物出土状況(南西から)

写真８　古墳時代中期　SE104(南から)

弥生時代前～中期と古墳時代初頭～後期の居住域を発見！

山賀遺跡<第 14 次調査>(山賀町六丁目)

山賀遺跡は、八尾市の北西部に位置する縄文時代(BC10C)～中世(16C)の複合遺跡です。今回の調査は、工場建設に伴うもので、調査面積は約 83 ㎡を測ります。今回の調査では、T.P.+3.5ｍ前後において、古墳時代初頭～中世の土坑 14 基、小穴 16 個、溝４条を検出しました(写真９)。これらの遺構のうち溝(SD1102)からは古墳時代後期の土師器の羽釜や須恵器の杯身などが出土しています(写真 10)。さらに T.P.+1.9ｍ前後において、弥生時代前～中期の小穴２個、溝１条を検出しました。古墳時代の遺構や遺物は、周囲の調査では皆無であり、本地一帯に当該期の集落が新たに展開していることが判りました。また、弥生時代前～中期の遺構や遺物は、西約 300ｍの近畿自動車道建設に伴う山賀遺跡発掘調査(山賀その３)や北西約 100ｍの山賀遺跡(62-543)の調査で確認し、弥生時代前期の遺構は、東約 200ｍの山賀遺跡第３次(YMG94-３)調査で確認されています。これらの事から、弥生時代前～中期の集落は東西 500ｍ程度の広範囲に展開している可能性が高くなりました。

写真９　１区　古墳時代～中世全景(西から)

写真 10　１区　古墳時代後期　SD1102 遺物出土状況(南から)

考古学よろずコラム 第27回

八尾市出土の主な遺物や遺構を紹介します。

4世紀の古墳(中田古墳)を発見！

中田遺跡南部の楠根川改修工事に伴い平成5年度に実施した発掘調査では、古墳時代前期後葉(4世紀後葉)の中田古墳が見つかりました(写真11)。

円形の墳丘と推定でき、墳丘部の推定規模は直径約33.5mで、周濠部を含めた直径は約45.5mになります(図2)。周濠からは円筒埴輪や朝顔形埴輪(写真12)が出土しています。円筒埴輪は、黒斑がある3条突帯の4段構成で、透孔の形状は全て逆三角形です。さらに小形の船形埴輪(写真13)、大小の家形埴輪(写真14)などの形象埴輪も出土しています。

この古墳は、中田遺跡およびその周辺を治めていた地域の首長の墓と考えられます。

写真11　中田古墳　埴輪出土状況(北西から)

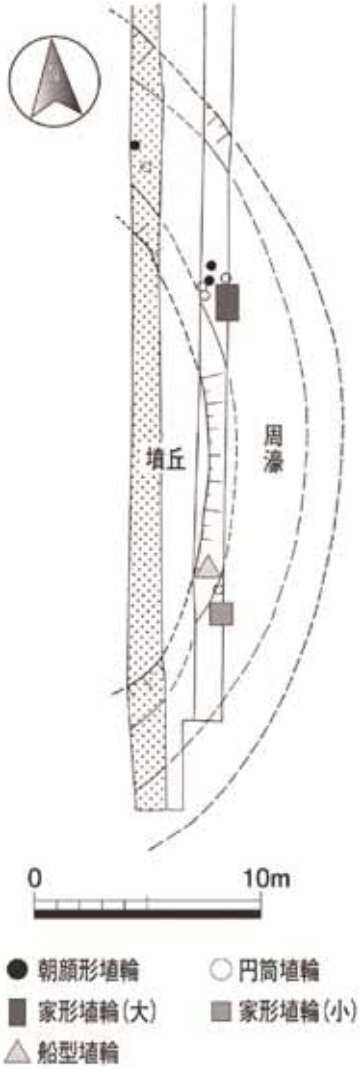

図2　中田古墳　平面図

写真12　円筒埴輪(左2点)・朝顔形埴輪(右)

写真13　船形埴輪

写真14　家形埴輪

編集後記

令和4年度夏季企画展では、前年度の発掘調査の成果から選りすぐり紹介しました。

特に郡川遺跡からは、吉備地域から持ち運ばれた弥生時代後期前葉の土器が、また東郷遺跡からは、讃岐地域から持ち運ばれた古墳時代初頭の土器が見つかっています。これらの土器は、当該期の同地域との交流関係を考える上で貴重な遺物で、今後、注目したい資料です。

〈KN〉

イベント情報

◆秋季企画展「八尾を掘る－40年の軌跡－」
内容：公益財団法人八尾市文化財調査研究会発足40周年を記念し40年間の中で特に貴重な成果があった遺跡について紹介します。
期間：令和4年9月28日(水)～令和5年2月17日(金)
時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
休館日：土・日・祝日・12月29日～1月3日
但し10月23日(日)、11月12日(土)・13日(日)、令和5年1月22日(日)は休日開館

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌
『八尾・よろず考古通信　27号』
発行：令和4(2022)年10月31日
八尾市立埋蔵文化財調査センター指定管理者
公益財団法人八尾市文化財調査研究会

〒581-0821　大阪府八尾市幸町四丁目58－2
TEL・FAX 072－994－4700
E-mail：maibun_zyao@white.plala.or.jp